

静岡県における戦前の常設保育所の展開

—創設期（1920）から太平洋戦争前（1941）まで—

The Development of Permanently Day Care Center in Shizuoka Prefecture during in 1920—1941 Period

佐々木 光 郎

はじめに

筆者はかつて保育士の養成にかかわったときがある。そのとき、静岡県下の保育施設史を紐解くと、大正期（1920）に、最初の常設保育所がつくられたことがわかった。常設の保育所が戦前期において、どのように展開したのかをまとめておく必要がある。

「戦前」とは太平洋戦争の終結前の時期である。かかる戦前において、保育を行なう施設は「託児所」、「保育園」、「保育所」などと呼ばれた。本稿では「保育所」とした。つぎに「常設」とは、毎日、保育を行なっている施設をいう。季節的に開かれる農繁期託児所と区別した。後者は農繁期に1週間から3週間程度開設された。

研究の目的、方法

(1) 研究の目的

静岡県における常設保育所の展開を整理し保育史上の意義を検討する。対象とする時期は、第一次世界大戦後の社会事業が成立したころから、1937年の日中戦争を経て保育事業が戦時厚生事業に組み込まれた1940、1941年ころまでである。太平洋戦争下の実態等は、県行政資料その他の資料の収集が十分にできなかったので別論を期す。

なお、常設保育所の展開を理解するうえで必要であると思料し、昭和初期から終戦後も続いた、農漁村の繁忙期の農繁期託児所（季節保育所）も取り上げた。

(2) 研究方法

静岡県（社会課）の刊行物や『静岡県公報』『静岡県統計書』等の行政文書や統計のほか、静岡県社会事業協会『静岡県社会事業』などの資料を分析する方法を採った。戦後に刊行された静岡県『静岡県史』（1997）や市町村史等も一部を引用した。

なお、本稿は、当時の保育実践の記録や経営・運営に関する第一級の資料に接しないまま綴っているため、方法論的に一定の限界性がある。農繁期託児所については、既刊の拙稿「静岡県における昭和戦前期の農繁期託児所の展開」『地域サイエンス』第4号、2017年、に依拠した。

先行研究

静岡県保育を語る会『保育を語る—静岡県保育史—』（1982）がある。戦前からの常設保育園を

中心にまとめたものである。常設保育所の設立の過程については、同書巻末の「静岡県保育年表」を大幅に引用した。本稿はこの先行研究に依拠して編んだが、できるだけ同書が触れなかった、他の新たな資料を発掘し多分に取り上げるように試みた。

倫理上の配慮

静岡県・市町村や静岡県社会事業協会等の公的機関が公刊した資料については、そのまま記載したが「事例」等は匿名とした。なお、原資料に不適切な用語を含むときは、「原文ママ」と注解して掲載した。

1 常設保育所の創立—大正期の社会事業

1918年の米騒動の後、全国的に、1919年には民衆の生活安定策の一つとして保育園の設立が取り上げられ、公立の保育園が大阪にはじめてつくられた。1919年の段階で全国に77箇所（公立5箇所）の保育所を数えた。かかる背景には、資産家の恩恵による慈善事業ではなく、社会連帯による社会事業への思想的な転換があった。¹⁾ 県内では、1920年、最初の常設の保育所として、社団法人救護会静岡託児所および静岡こども相談所附属保育園が設立された。全国的な動きに相呼応するかちとなった。

1920年から1926年までの大正期の6、7年間を対象とする。設立された年月順に施設の概要を掲載する。この時期は、それぞれが自ら「託児所」や「保育園」と呼称したが、静岡県『静岡県統計書』では、これらの保育施設を社会事業にかかる「幼児保育」としている。

(1) 大正期（1920～1927）に創立された保育施設

本県の保育事業は、静岡と浜松の都市部から展開したことが分かる。

表 幼児保育（1927年、静岡県）

名 称	組織	所在	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
救護会静岡託児所	社団法人	静岡市	111	61	50
静岡子供相談所保育園	個人経営	静岡市	150	61	89
浜松市立海老塚託児所	市営	浜松市	74	33	47
同 池川託児所	〃	浜松市	63	42	21

（『静岡県統計書』1928年度版）

ア 社団法人救護会静岡託児所

1920年8月6日、社団法人救護会が静岡市住吉町に、昼間保育の事業として「静岡託児所」を開設した。静岡市が設置し運営を社団法人救護会（理事長中田録郎）に委託した。中田雅子が施設長となった。

『保育を語る—静岡県保育史—』（1982）（以下『保育を語る』という。）によると、静岡市は「大正八年の経済恐慌と米騒動により、児童の放置されている現状を見て」、「住吉町一丁目に託児所を建築し、この経営を救護会に委託開設した」という。同『保育を語る』は『静岡市

一番町誌』を引用し、「当時は一面の田圃であったが、ここに保育園が建てられた」と記している。施設は、「昭和20年に到り、静岡市の大空襲の際、爆撃を覆り焼失して廃止となった」という。²⁾

〈事業内容〉

開設当初は「生後満六ヶ月以上満六ヶ年以下の孤児を保育し一日金拾銭の委託料を徴した。毎月15日には「保護者会」を催した。³⁾ ここでの「孤児」とは「保育に欠ける」子どもを指したと思料できる。

1923年中では1日平均34名の子どもを預かった。1925年11月現在、所長のほか保母長1名、保母助手4名、顧問医4名の職員体制で、50名の子どもが通った。経費は2,688円余で、「補助金、事業収入、臨時寄付等」を以って維持した。⁴⁾

1927年12月現在で、最近1年間の保育児数は1日平均24名余で現在61名であった。顧問医は2名となったが、毎月2回出張して「乳幼児の健康診談(断)」を行った。

1927年度の経費は4,036円50銭であった。「乳児の保育」は当初は行っておらず年々「設備を施して内容の充実を図り」、1927年度に「開始するに至」ったという。⁵⁾

イ 静岡こども相談所附属保育園

1920年8月、静岡市宮ヶ崎町報土寺の境内にこども相談所(代表・戸崎潜龍)がつくられた。1922年4月5日、同相談所内に附属保育園を設立した。寺院の協力があった。

〈事業内容〉

相談所の職員のほか1名の専任保母がこれに従事した。幼児の年齢は3歳以上とし、保育時間は早朝より夕方までとした。保護者からは保育料を徴収した(家庭の事情により無料又は半額)。遊戯舎、保育舎、午睡舎の3棟をもち、運動場は「廣大ニシテ大樹多キ寺ノ境内ヲ使用」した。⁶⁾ 1927年度は児童数75名で、そのうち「児童救護事業(病弱児童)」の子どもが15名いた。⁷⁾

ウ 浜松市立海老塚託児所

工業地である「本市としては特に託児所設置の必要なるを認め、地を市内海老塚町に卜し」、元市立高等女学校校舎を移転改築し、1924年10月11日開所した。「土地170坪、建物76坪。所長1名と保母1名、使丁1名」で始めた。⁸⁾

資料 浜松市立託児所(1924、浜松市)⁹⁾

一、目的 幼児ある為労働に支障を生ずる者の委託を受け、之を保育するにあり。

(二、起源及び沿革 三、位置 略)

四、職員 所長 徳増愛治(兼務無給)、保母二名

五、保育幼児数 大正十三年十二月末 三七、大正十四年十二月末現在 四五

六、保育状況 保育は日の出より日没までとし、年齢は満六歳以下、当分乳児は謝絶す。

保育料は一日十銭とし、昼食及び間食を給与す。(七、設備 略)

	1926年越員	1927年入所	計	一日平均預人員
男	27	14	41	18.5
女	18	22	40	12.5
計	45	36	81	31.0

エ 浜松市立下池川託児所

市はさらに1箇所増設の必要を認め、1926年12月6日、下池川町に市立託児所を設置した。市役所の不用建物を移転改築（敷地100坪7合、建物坪数37坪）したものであった。所長1名、保母2名が従事した。¹⁰⁾

(2) 『静岡県統計書』（1927、1928年度版）に未記載の保育施設

『保育を語る』の「静岡県保育年表」によると、4箇所以外にも、1927年までに設立された常設保育園があった。時系列に列記する。別途、調査し記録化する必要がある。

創立年月日 保育施設名・設立者等

1919.5.22 藤枝同和保育園（志太郡藤枝町） 代表者大塚甚之助²⁾

1923 勝間田保育所（榛原郡勝間田村） 経営報徳社 責任者飯田英太郎³⁾

1925.9.5 宮加三保育園（清水市宮加三） 設立者遠藤法龍（保育児童数93名）⁴⁾

1926.4.5 花園保育園（庵原郡由比町由比） 設立者奥住松巖（保育児童数118名）⁵⁾

はじめは寺院内の建物の一部と寺庭を開放し家庭への間接援助を目的につくったが、経営（設立）者は1926年4月、園舎の改修築を施し、楽器運動器具等の設備を整え、私設保育園として開設した。

「年々一百名内外ノ児童ノ保育ニ任ジ」、保育時間は午前8時頃より午後4時頃までとした。⁶⁾

1926 羽衣保育園（安倍郡三保村） 経営者自治会（後清水市に移管）⁷⁾

註

1) 宍戸健夫『保育の森 子育ての歴史を訪ねて』、あゆみ出版、1994年、240頁

2) 静岡県保育を語る会『保育を語る—静岡県保育史—』、1982年3月（以下、著書名を『保育を語る』とし発刊年月も略す）、226頁

静岡県民生部『静岡県社会福祉の歩み』、1989年3月、239～240頁

3)、4) 静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1925年11月、4頁

5) 静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1927年12月、83頁

6) 静岡県社会事業協会『皇紀二千六百年記念静岡県社会事業概要』（以下、『静岡県社会事業概要』という。）、1941年9月、268～269頁

7) 静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1927年12月、86頁

8)、7) に同じ83～84頁

9) 「浜松市立託児所の開所（大正13年10月）」『浜松市史 新編史料編三』、2004年3月、787～788頁。『静岡県社会事業概要』1941年9月では開設は「10月10日」である。

- 10) 静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1927年12月、84～85頁
- 12) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、355頁
- 13)、14)、15)「静岡県保育年表」『保育を語る』、356頁
- 16) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、286～288頁
- 17)、13) に同じ。356頁

2 常設保育所と共に 農山漁村託児所の展開

(1) 県内最初の農繁期託児所

1927年、県内で最初に農繁期託児所が開設された。榛原郡勝間田村の農繁期保育園と清水隣保館農繁期託児所である。¹⁾

次の資料は、1927年6月の榛原郡勝間田村農繁期保育園での実践例(抄録)である。小学校の支援のもとで展開された。県社会課の指導の前であったが、保育の原型がある。

資料 農繁期保育園(1927.6、榛原郡勝間田村)²⁾

会期 昭和二年六月一三日から一九日までの七日間

保育時間 朝七時から夕方六時 三歳から七歳、男女各三十〇名内外

保母 勝間田村女子実業補習学校鈴木千代ほか三名。勝間田小学校長ほか数名の教員の協力

会場 中公会堂 畳敷の室内には神殿がしつらえられ、偉人の肖像画

用具 (室内) 絵本、オモチャ、楽器、蓄音器、ハンモックなど
(室外) 砂場、スベリ台、水遊びなど

お話 「一寸法師」、「牛と蛙」などの童話。「お地藏様」などの仏教説話
「小猿の孝行」「かしこき少女」などの教訓話。保育園主任・中報徳社長飯田栄太郎「二宮先生」の講話

昼食等 昼食のほか九時と三時にはビスケットなどのおやつ

その他 一週間の間一日だけ雨。時には近傍への外出
朝、親と別れたがらない子、保母の背中から離れない子、喧嘩をする子など多かった。日がたつにつれて保育の成果(がみられた)

(2) 県行政の主導—社会事業として

第一次世界大戦後の不況(昭和恐慌)は農山漁村を苦境におとし入れた。政府や県は、これら農漁村の生活のたて直しの政策として奨励したのが、「農漁村託児所」であった。

1926年7月、静岡県社会課が発足した。早々に「農漁村託児所」に着目した。については「農漁村の繁忙なる時季に於て、季節的に施設する社会事業」³⁾とした。①農繁期で働く父母の「生産能率の増進を図る」こと、②「児童を保護教養する」のを目的とした。

1927年度には、県は、「農漁村ノ社会事業トシテ最モ適切ナル施設」と位置づけ、市町村に奨

励した。⁴⁾ かかる動きには「社会連帯による社会事業への思想的な転換」があったといわれる。⁵⁾ ただし、子どもの保育（保護教養）への関心は後方の位置にあった。

ア 設立のすすめ

1928年2月、静岡県学務部長名をもって町村長あてに「農漁村託児所奨励ニ関スル通牒」（社第121号）を發し農漁村託児所を奨励した。

あわせて、県は町村長会や小学校長会に対しても託児所の開設を働きかける文書を發している。設置した市町村へは、「予算ノ範囲内ニ於テ其ノ経費ノ三分ノ一以内ノ奨励金ヲ交付」するとした。⁶⁾ こうして、農漁村託児所の大枠は行政の主導で進んだ。

資料 農漁村託児所設置要項（1928年2月、静岡県学務部長、抄録）⁷⁾

- 一、設置目的 繁忙ナル季節ニ子供ヲ預リ安心シテ業務ニ従事セシメ。之（子供）ヲ保護教養シテ農漁村振興ノ一助タラシムル
- 二、経営主体 町村ノ施設。町村農会、小学校、婦人会、報徳社、寺院、篤志家等ノ援助ニ依ル
- 三、設置ノ範囲 一町村一ヶ所。大字部落ニ設ケ便宜ヲ図ルコト
- 四、設置ノ場所 小学校、寺院、集会所、篤志家ノ家等
- 五、設備 保育室、寢室（昼寝セシム）及遊戯運動場
- 六、主任及保母 （略）

イ 県の「保育の方法」―常設保育所への影響

1928年3月、県社会課は小冊子『農漁村託児所の経営』を各市町村等に配布した。同冊子には「農繁期託児所の使命」「経営の主体」「開設の区域及場所」「開設期間」「受託児童の年齢」「受託時間」「保母」「保育の方法」および「経費」の9項目について説明している。農漁村託児所は、この冊子の「指針」に準拠し運営された。

「保育の方法」についてみる。保育の時間割等も例示し、保育実践では「幼児の興味を中心」にすとうたい「唱歌」「自由遊戯」など取り入れた。また、「（保護者には）託児所でやった仕事を知らせ」るなどとした。歴史的な限界性はあるものの、今日にもつながる保育実践の方法が読み取れる。常設の保育所の実践にも影響を及ぼしたものと推察できる。

資料 「保育の方法」（1928年3月、県社会課、抄録）⁸⁾

- (一) 適当な場所にブランコ、這り台、砂場等を作って自由に嬉戯せしむること。
- (二) 比較的年長者には適宜簡易なる唱歌、遊戯、切紙細工等を課しても良いが、何処迄も幼児の興味を中心として行わねばならない。
- (三) 食事と間食 昼食は握飯位で極く簡単にして、少しでも家庭の手数と出費とを省く様にする。間食は午前午後時を定めてやる。普通薩摩芋、馬鈴薯等を主なるものとし、菓子類は腹をこわさぬ様煎餅、飴位にして経費を節約する。
- (四) 保育時間割の一例 開所より八時頃迄自由遊戯、八時頃より九時頃迄指導遊戯又は唱歌、九時頃より十時頃迄自由遊戯、（間食）十時頃より十一時半頃迄、自由遊戯

十一時半より十二時半迄、(昼食) 十二時半より二時頃迄、自由遊戯二時頃より三時(又は四時)迄、お伽噺又は散策、(間食) 三時半より四時迄、自由遊戯四時半より五時半迄 指導遊戯、五時半より帰宅迄自由遊戯

(五) 午睡 子供によつては相当の時間午睡せしむる要があるから枕、毛布、蚊帳等の用意をする。

(六) 子供の服装 普段着のままが良いのであって、互いに着飾るのはいけない。汚れない為に「エプロン」を掛けさせる位は良い、又「ハンカチ」か手拭を持たせることも必要である。

(七) 母の会 子供達の一日の生活ぶりを見せ、託児所でやった仕事を知らせ、尚開所中につくつた良い習慣をいつまでもつづける様にして貰います。

(3) 奨励金後の展開

県は1928年度には開設奨励金の交付を始めた。県下で11町村20箇所が交付を受けた。1928年、農繁期託児所の開設は蒲原郡勝間田村ほか21箇所を数えた。⁹⁾

ア 浜名郡新居町

1928年5月、同町の篤志家渡辺鑑吉の尽力のもと「社会教化」事業として始まったものである。町内3箇所に農繁期託児所が開設された。保姆は、「市街地の婦人を始め其他一般篤志家婦人の奉仕」に頼った。30名前後の人員数を確保できた。¹⁰⁾ 1932年5月には朝日新聞社社会事業団より表彰された。

表 託児所の実績(1928~1929、浜名郡新居町)¹¹⁾

年度	開設箇所	期間／春蚕期・田植期	収容児童	保姆／春蚕期・田植期
1928	3	5 3	166	9 19
1929	4	6 4	320	42 42

イ 浜名郡長上村

保育の「費用」は1日白米1合で「献立及おやつ表」をみると、当時では相応以上の食品物であった。保姆となる「先生」には「小学校先生、処女会員、篤志夫人等」が担った。

資料 長上村与進託児所要項(1928.6、抜粋)¹²⁾

- 一、日時 6月24日から6月30日まで 毎日午前7時から午後6時まで
- 二、場所 村内4ヶ所 (一)本校 (二)市野分教場 (三)小池分教場 (四)下石田公会堂
- 三、収容児童及人員 三歳から七歳まで。一ヶ所三十名以下 (四、略)
- 五、先生 小学校先生、処女会員、篤志夫人等 六、みなり ふだんぎのみ
- 七、食事 にぎりめし=こちらでたいてたべさせます、間食(おやつ) 二度(おかし・くだものなど) =こちらでくれます
- 八、費用 白米七号を第一日おつれのときお出し下さい (以下、二〇まで略)

〈献立及おやつ表〉

	昼 副 食 物	おやつ前	後
廿四日	ツクダニ、沢庵	センベイ	甘藷
廿五日	ニボシ、沢庵	氷砂糖	アラレ
廿六日	シソ巻、梅干	ビスケット	センベイ
廿七日	福神漬、沢庵	甘藷	氷砂糖
廿八日	カキスルメ、沢庵	アラレ	ビスケット
廿九日	ツクダニ、梅干	センベイ	ダンゴ
三十日	ニボシ、沢庵	ビスケット	アラレ

〈託児所日課表〉（註 例示は初日と最後日）

日	仕	事
二十四日	午前	玩具遊（内） オ参（外） オ話（内） 昼食
	午後	ボール投（外） 唱歌（内） 砂遊（外）（中略）
三十日	午前	積木遊（外） オ話（内） 唱歌（内） 昼食
	午後	ボール投（外） 砂遊（外） 遊技（外）

一、八時まで及午後五時から自由遊び

一、毎日オ土産準備 持ち帰らしむ 一日 ハタ、二日 提灯、三日 風車

四日 ツル、五日 手堤、六日 花、七日 舟

一、雨天の日は適宜変更（略 設備材料・購入用具）

ウ 三ヶ日町大福寺農繁期託児所

1928年7月、仏教社会事業として同寺の住職堀口眞隆が始めた。30名程度であったが、「年とともに増加一五〇人にもなった」。「婦人会員の保姆さんが、てんてこ舞いした」という。

1945年まで地域の子どもの保育と農家の増産援護に寄与した。¹³⁾

エ 引佐郡奥山村・井伊谷村（旧引佐町）

1928年度、県の開設奨励金の交付を受け、小学校長が女子訓導の協力を得て開設した。奥山村では奥山小学校長の坂東保が農繁期託児所の所長となり、奥山尋常高等小学校と谷沢教員住宅の二か所に開設した。主任保姆には同校の女子訓導があたり、処女会員が保姆を勤め、高等科生徒も補助員として手伝った。¹⁴⁾

井伊谷村も井伊谷尋常高等小学校内に開設した。6月24日から30日までの7日間で、託児時間は午前8時から午後6時までとした。「三歳から七歳までの児童」が対象で、「一日平均受託児童は一七、八人」であった。婦人会や仏教寺院の協力からほとんどの地区で開催するようになった。¹⁵⁾

オ 小笠郡朝比奈村（旧浜岡町）

1929年6月、同月の6月15日から8日間開設された。以降、毎年1週間程度続けられた。尋常小学校が中心となって開設し、学校職員が協力した。保姆には婦人会や女子青年団員が主と

なって担った。終戦後も毎年田植え時期に開設し引き継がれた。¹⁶⁾

註

- 1) 「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁
- 2)、3)、4) 「静岡県社会課『農漁村託児所の経営』1928年3月」静岡県教育史刊行会『静岡県教育史 通史編下巻』、1973年3月、233頁
- 5) 穴戸健夫『保育の森 子育ての歴史を訪ねて』、あゆみ出版、1994年、240頁
- 6)、7) 静岡県学務部長「農漁村託児所奨励ニ関スル通牒」(社第121号、1928. 2. 2)、『静岡県公報』第268号、1928年2月2日
- 8) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、53～55頁より引用
- 9) 静岡県社会事業協会会報第23号「県下の社会事業」『静岡県史資料編20 近現代5』、1993年3月、950頁
- 10)、11) 佐藤江東『渡辺鑑吉氏伝』、新居昭和会、1936年11月、165～167頁
- 12) 「長上村の季節託児所」(昭和3年6月15日)『浜松市史新編 史料編四』、2006年3月、731～734頁
- 13) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、56頁
- 14)、15) 静岡県社会課『農村社会事業の概況』1929年。「社会事業の歩み」引佐町『引佐町史下巻』、1993年3月、518頁
- 16) 「農繁期託児所と共同炊事」御前崎市『浜岡町史 通史編』、2011年3月、975～976頁

3 昭和初期の常設保育所

1927年から1935年までの昭和初期の10年間について、常設保育所の創立の動きや保育実践についてみる。この時期は昭和恐慌、農村不況と重なり県民の生活は困窮した。

(1) 県行政の動き

県当局は、社会事業として保育を行なう施設を「託児所」から「保育所」へと変えた(静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1927)。これには「子ども観」の転換があった。

- ① 「託児所」の「託児」であるが、子どもは「労働ノ手足縛トナルベキ」存在(浜松市立託児所、1924)であった。預かった乳幼児を無事に親元へと帰すというものであった。
- ② 「保育所」の「保育」には、「幼児ノ心身ヲ健全ニ発達セシメ」(原町保育園、1932) るといふ趣意が伝わる。県行政に「社会連帯」の思潮や「児童中心」の考えが影響した。

(2) 常設保育所の創立(1927—1935)

昭和期では1940年度末までには17箇所常設託児所が設立された。以下、年別にみる。

1927年

ア 清水隣保館託児所

1927年1月21日、清水市の篤志家山田政吉が、私設隣保館の一施設として、同市受新田字向

島に創設した。専任職員は保姆1名、巡回産婆1名であった。満2歳以上6歳以下の幼児を対象とした。保育料は徴収せず、おやつ代として1日5銭までを徴した。1927年12月現在の「在籍数」および「家庭職業別」をみる。¹⁾

託児在籍数調	満2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	3	10	8	16	6	43

家庭職業別調 会社員1、雑貨商1、豆腐屋1、飲料水業1、八百屋2、魚小売6、一文菓子屋1、浮船人夫3、行商3、大工4、漁夫2、日雇職工6、沖人夫6、其他2、計43

イ 県下の保育状況（1927）

1927年12月末現在については、県下の全施設で「本年（1927年）中入所63名、本年中退所42名、年末現在21名、本年中預り延人員3,920名」であった。²⁾

表 幼児保育（1927年12月末、静岡県内）

名 称	組織	所在	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
救護会静岡託児所	社団法人	静岡市	111	61	50
静岡子供相談所保育園	個人経営	静岡市	150	61	89
浜松市立海老塚託児所	市営	浜松市	74	33	47
同 下池川託児所	〃	浜松市	63	42	21

『静岡県統計書』（1927版）

1928年

ア 福地町曙保育園が創立 1928年4月1日³⁾

イ 浜松市立馬込保育園が創立 1928年10月1日⁴⁾ 1931年度より「保育園」と改めた。

1929年

ア 財団法人静岡ホームが保育学園部設立 1929年1月15日⁵⁾

イ 静岡白揚保育園 1929年10月18日静岡市に設立 園長土井壁子、保育児童数102名⁶⁾

ウ 県下の保育状況（1929）

表 幼児保育（1929年度、静岡県内）

名 称	組織	所在	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
救護会静岡託児所	社団法人	静岡市	144	99	45
静岡子供相談所保育園	個人経営	静岡市	145	100	45
浜松市立海老塚託児所	市営	浜松市	153	73	80
〃 下池川託児所	〃		51	19	32
〃 馬込託児所	〃		72	34	38

『静岡県統計書』（1930年版）

1930年

この年内であらたに創立された保育園等はつぎのとおりである。

- ア 私立焼津保育園 1930年3月21日⁷⁾
- イ 焼津仏教会光明会託児所 志太郡焼津町に設立 経営者山本辰音 保育児童70名⁸⁾
- イ 駿東郡原町保育園 1930年4月1日 設立者植松ちよ 保育児童数148名⁹⁾
- ウ 清水市加宮三保保育園 1930年4月¹⁰⁾
- エ 私立島田託児所 1930年5月1日¹¹⁾
- オ 日之出保育園 1930年5月1日 浜名郡可美村に設立。責任者 東名神野地区・名荷信三 保育児童数42名¹²⁾
- カ 静岡市保育園 1930年5月1日 静岡市新富町に設立。保育児童数150名¹³⁾

1931年

- ア 柏久保保育園 1931年6月 田方郡北狩野村柏久保に設立 初代園長 室野玄一¹⁴⁾
- イ 社団法人清水保育園 1931年7月7日 清水市松原町に設立
 設立者および初代園長は中田雅子。救護会が勤労者の宿泊保護施設（1921年設立）を改装し清水保育園とし定員150名で開催（設）した。1944年12月の大地震に遭い、乳幼児の退避の困難さを体験した。翌1945年3月末に閉園した。¹⁵⁾

1932年

『県統計書』（1933年版）の掲載によると、県下10箇所の常設保育所の状況を載せている。¹⁶⁾

表 幼児保育（1932年度、静岡県）

名 称	所在	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
救護会静岡託児所	静岡市	127	115	79
静岡子供相談所保育園	〃	74	77	79
浜松市立海老塚託児所	浜松市	85	76	80
〃 下池川託児所	〃	25	29	30
〃 馬込託児所	〃	51	43	53
静岡市（新富町）保育園	静岡市	237	209	83
静岡ホーム保育園	〃	34	48	30
青葉ヶ丘保育園	〃	24	28	28
清水保育園	清水市	164	113	81
西浦村保育園（村営）	田方郡西浦村	27	25	33

1933年

(1) 『県統計書』（1934年版）

前年度の「青葉ヶ保育園」（個人経営）と「西浦村保育園」が掲載からなくなり、かわって「原町保育園」（個人経営）が載った。原町保育園の1933年度の状況（1934年版）である。

名 称	所在	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
原町保育園	駿東郡原町	120	16	104

(2) あらたに創立された常設保育所

- ア 藤枝町融和会保育園 5月22日 志太郡藤枝町に設立 初代園長丸尾熊蔵¹⁷⁾
 イ 藤枝町融和会保育園 6月に開設¹⁸⁾
 ウ 磐田郡豊浜保育園 8月 磐田郡豊浜町に設立 初代園長 杉浦タミエ¹⁹⁾
 エ 長沼保育園 10月1日 清水市長沼に設立 経営者 静岡市興静会²⁰⁾

(3) 軍人遺家族の子ども優先

県軍事援護助成金の交付のために、各園は「軍人関係児童数」を調べた。つぎの事例は私立島田託児園についてである。子ども数4、5人に1人の割合であった。

表 軍人関係児童数（1933、1934年度、私立島田託児園）²¹⁾

	1933年度	1934年度
実人員数	15	17
開園日数	274	261
一日平均	10	10弱
全児童平均	47	40弱

(4) 乳児の保育

社団法人救護会清水保育園は1935年度より「勤労階級ノ子女ニシテ生後六ヶ月ヨリ学齡期迄ノ乳幼児」を昼間に保育をすとした。同年度に館内を改造し幼児110名のほか、定員15名の乳児部を併設した。

表 乳幼児保育事業成績（1933～1934年度、社団法人救護会清水保育園）²²⁾

年度別	1933年度	1934年度
実人員 乳児	78	60
幼児	223	220
延人員 乳児	3,937	4,916
幼児	26,402	26,532

1934年 敬世社愛国保育園の創立 1934年10月1日²³⁾

註

- 1) 静岡県社会課『静岡県社会事業要覧』、1927年12月、85～86頁
「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、1982年3月、356頁では「1926.2.21」となっている。ほか、「清水隣保館（清水市港町） 幼児昼間保育・夏季林間宿泊保育 隣保館山田政吉」と記す。
- 2) 『静岡県統計書』（昭和二年）、264～265頁
- 3) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、291頁
「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁では「福地町保育園 浜松市福

地町に設立。初代園長杉浦遠次郎」とする。

- 4) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、266～268頁
- 5)、4)に同じ。260～266頁
- 6)「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁
- 7)、4)に同じ。279～281頁
- 8) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁。静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、276～279頁
- 9)「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁
- 10)、4)に同じ。285～286頁 11)、4)に同じ。279～281頁
- 12)、13)「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁
- 14)「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁
- 15)「静岡県保育年表」静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁、227～228頁。静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、288～291頁
- 16)『県統計書』1933年版。静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、295～296頁
- 17) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、357頁
- 18) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、296～297頁
- 19)、18)の304～306頁。静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁
- 20) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁
- 21)、22) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、291頁
- 23)、21)に同じ、291～294頁

4 昭和10年代はじめの常設保育所（1935—1939）

(1) 1935年度の常設保育所

保育事業は社会事業として定着し県市町村も予算化しその実践を支えた。運営主体は多様化していた。①市（公）営、②社団法人、③共同経営（会員組織）、④個人経営などである。

1935年度については、『静岡県統計書』は14箇所の保育園を掲げる。

表 幼児保育（1935年度、静岡県）

名 称	所在	組織	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
救護会静岡託児所	静岡市	社団法人	301	182	119
静岡子供相談所保育園	〃	個人経営	182	107	75
静岡市（新富町）保育園	〃	市営	347	234	113
静岡ホーム保育学園	〃	社団法人	81	49	32
静岡ホーム乳児部	〃	〃	13	3	10
啓世社保育園	〃	共同経営	66	10	56
浜松市立海老塚託児所	浜松市	市営	152	82	70
〃 下池川託児所	〃	〃	65	30	35
〃 馬込託児所	〃	〃	124	63	61
救護会清水保育園	清水市	社団法人	342	185	157
私立清水隣保館託児部	〃	個人経営	—	—	—
原町保育園	原町	〃	100	90	10
焼津保育園託児所	焼津町	〃	160	25	135
島田託児所	島田町	〃	63	—	63

（『県統計書』、1936年版）

（2）農繁期託児所から常設の保育所へ

鷹岡保育園（富士郡鷹岡町）を取り上げる。同園は1935年4月1日に開設された。¹⁾ 鷹岡仏教会の福泉寺ほか3寺院が、1930年ころから農繁期託児所を開いたが常設保育所とした。60名の園児で発足した。^{2)、3)}

職員体制

1940年までの6年間をみると、各寺院の僧侶が交替で園長を勤めた。福泉寺の宮田日進住職は1940年から1941年度に院長を勤め、1945年度から再度院長となっている。保母は1名の主任保母（佐野久子）が、開園時から1940年度現在も永年間勤務し5名の保母助手を配置している。保母助手は女学校を卒業した直後の女性たちで、大半は1～2年間の勤務で退職した。月給は主任が11円、助手は9円。

助成金 1939年度 高岡町50円、厚生省200円、静岡県50円、軍人援護会55円。創設時から王子製紙富士第一工場より300円の寄付があった。

組編成 地区別の4、5歳児混合の3組

保育内容 紙芝居、折紙、ぬり絵、遊戯、散歩

行事等 花祭り（春）、小学校の運動会参加（秋）、遊戯会（年1回、保護者を招待）

（3）常設の保育所の創立（1936～1939）

1936年

ア 相生保育園 1936年4月1日⁴⁾ 清水市宮方に設立。設立者園長金沢須恵吉

イ 八幡保育園 1936年4月1日⁵⁾ 田方郡中大見村八幡に設立。設立者園長室野玄一
1937年

ア 巴町保育園 1937年2月16日⁶⁾ 静岡市緑町に設立。設立者・経営者静岡市興静会

イ 焼津保育園 1937年3月21日⁷⁾ 焼津町焼津に設立。設立者山本イサヲ

ウ 有度十七夜山保育園 1937年5月21日⁸⁾

5月25日、安倍郡有度村上原に設立。設立者園長永田泰嶺 保育児童数77名

1938年

1937年7月の日中全面戦争後、「託児所等急激に増加」⁹⁾ したといわれる。「大正末期六か所六二二人であったものが、昭和十五年には、二五〇か所、二、五〇〇人に増加した」(静岡県『社会時報』¹⁰⁾ と記されている。「戦死者、傷痍軍人、応召兵等の家族」の援護がおおきな課題となったからである。とくに農漁村では一家の働き手が応召されたときは、家族には負担が重くのしかかった。

ア 池田保育所 1938年4月 磐田郡池田村に開設。経営者池田村婦人会支部¹¹⁾

イ 舞阪保育園 1938年4月 浜名郡舞阪町に設立。設置者手塚馨¹²⁾

ウ 静岡市八幡保育園 1938年5月10日¹³⁾

〈保育内容〉 満2歳から学齢までの幼児とした。保育料は1日金4銭。「戦死者、傷痍軍人、
応召兵等の家族」には「免除の相談」に応じた。

エ 清水市内鮮同和会保育事業 1938年9月1日¹⁴⁾

清水市に設立。経営責任者 清水市内鮮同和会・理事長李旦洪 保育児童数47名

1939年

(1) 『県統計書』(1939年度)

つぎの16箇所¹⁵⁾の常設保育所を掲げている。1935年度のそれと比較すると、①「敬世社保育園」「私立清水隣保館託児部」および「島田託児所」がなくなっている。②かわって「静岡市八幡保育園」(静岡市)、「愛国保育園」(静岡市)、「豊浜保育園」(磐田郡豊浜村)、「有度十七夜山保育園」(安倍郡有度村)、「見付保育園」(磐田郡見付町)の5箇所が載る。

表 幼児保育（1939年度、静岡県）

名 称	所在	組織	本年度中入所	本年度中退所	年末現在
静岡市新富町保育園	静岡市	市営	1,236	363	179
静岡子供相談所附属保育園	〃	個人経営	150	129	129
救護会静岡託児所	〃	社団法人	313	285	209
静岡ホーム保育学園部	〃	社団法人	59	61	17
静岡市八幡保育園	〃	市営	60	35	58
静岡ホーム乳児部	〃	財団法人	10	8	10
愛国保育園	〃	個人経営	65	59	92
浜松市立海老塚託児所	浜松市	市営	96	73	93
〃 下池川託児所	〃	〃	88	38	50
〃 馬込託児所	〃	〃	63	51	78
救護会清水保育園	清水市	社団法人	154	145	150
焼津保育園託児所	焼津町	個人経営	19	14	68
豊浜保育園	豊浜村	〃	45	54	46
有度十七夜山保育園	有度村	〃	78	71	76
原町保育園	原町	〃	128	129	134
見付保育園	見付町	会員組織	42	2	39

（『静岡県統計書』1940年版）

(2) 軍人遺家族のための保育所の設立

1939年4月、静岡県社会事業協会は軍事援助事業として直に経営する袋井保育園を創設した。保育園の経営は、「東亜新秩序建設」の「銃後」の事業であるとした。軍人遺家族を対象に「出征軍人並勤労者等ノ労働能率ヲ増進」するのを図った。¹⁵⁾

(要項)

- 1 設置場所 磐田郡袋井町袋井
 2 保育児童 定員80名、従事者 保母2人・助手1名 外袋井婦人会後援 (3略)
 4 建物其他概要 事務兼準備室 4坪、保育室9坪2室(1室40人収容) 遊戯室30坪
 運動場101坪 経費 11,200円

(3) あらたに創立された保育所

- ア 白道保育所 1939年4月3日¹⁶⁾ 三島市茅町に設立。設立者土山慈之
 イ 小芝保育所 1939年9月1日¹⁷⁾ 清水市小芝町。責任者池田寿太郎 児童数125名

註

- 1) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、295～296頁
 静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁
 2) 富士市児童課『富士の保育史』、1986年3月、28頁

- 3) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、295～296頁
- 4)、5)、6)、7)、静岡県保育を語る会『保育を語る』、359頁
- 8) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、297～304頁。静岡県保育を語る会『保育を語る』、358頁
- 9) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、359頁
- 10) 静岡県民生部『静岡県社会福祉の歩み』、1989年3月、240頁
- 11)、12) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、359頁
- 13) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、257～258頁
- 14) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、359頁
- 15) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、39～40頁
- 16)、17) 静岡県保育を語る会『保育を語る』、360頁

5 太平洋戦争直前（1940、1941）の常設保育所

(1) 県保育行政の変容

1938年に国家総動員法が制定されたところから1939年にかけて、県の方針は軍事援護事業を重視した。保育事業は「長期建設に対処すべき人的資源の確保」の事業となった。かつ「出征応招軍人遺家族の家族援助」を優先とした（1939、大井新一県社会事業主事）。¹⁾

1940年になると、保育実践は戦争遂行の「人的資源ノ涵養」が目的となった。その「遂行ハ聖戦目的達成」のための事業となった。²⁾

常設保育所は経営方針、保育内容・方法等について、県行政の指導に従うのを余儀なくされた。理由は、宮内省の御下賜金や厚生省、県・市町村からの助成金を「下付」する立場であり、抗って意見を言うのは困難であったからである。

保育現場では、行政の方針に、①先んじて取り組んだもの、②難なく順応（適応）できたもの、③戸惑いながらも従ったもの、の3つの対応類型が推察できる。③は自分の意見等を表には露さないが、かつて社会連帯の思潮に基づく「何処迄も幼児の興味を中心」（1928年3月、県社会課）の原則を、心深く護っていたと思う。

(2) 静岡県社会事業協会による「常設託児所調」（1940年度）

県社会事業協会は県の外郭団体で、つぎの25箇所の保育所を挙げている。

表 「常設託児所」(1940年度、県社会事業協会調)³⁾

団 体 名	設立年月日	保育児童数	(県) 補助奨励金
静岡市立新富町保育園	昭5.5.28	150	—
同 八幡保育園	昭13.5.10	100	—
社団法人救護会静岡託児所	大9.8.6	—	—
静岡こども相談所附属保育園	大11.4.7	161	100
財団法人静岡ホーム保育学園部	昭4.1.14	73	850
社会事業敬世社愛国保育園	昭9.10.1	92	100
静岡白揚保育園	昭4.10.18	102	70
浜松市立海老塚保育園	大13.10.10	—	—
同 下池川保育園	大15.12.6	—	—
同 馬込保育園	昭3.10.1	—	—
浜松市福地町曙保育園	昭3.4.1	92	(153)
宮加保育園	大14.9.5	93	50
社団法人救護会清水保育園	昭6.7.7	—	—
清水内鮮同和会	昭11.9.1	47	160
伊豆長岡保育園	昭9.12.5	73	229
原町保育園	昭8.4.1	148	150
鷹岡保育園	昭10.4.1	223	131
花園保育園	大15.4.5	118	50
有度十七夜山保育園	昭12.5.21	77	60
私立焼津保育園託児所	昭5.3.21	70	100
私立島田託児所	昭5.5.1	62	80
藤枝同和保育園	昭8.5.22	46	—
豊浜保育園	昭8.4.1	46	50
日之出保育園	昭5.5.1	42	—
小芝保育園	昭14.9.1	125	243

このほか、1940年にあらたに創立された保育園としては橋広保育園（1940年5月1日、小笠郡掛川町大池に設立、初代園長佐藤まつ江）がある。⁴⁾

(3) 強まる軍事色

ア 出征応招軍人遺家族の家族援助

保育園では対象家族への援助が行なわれた。そのひとつが保育料の免除等であった。

a 浜松市立海老塚、下池川保育園、馬込保育園

1940年9月、市は「浜松市立保育園規定」を定めた。日中戦争に召集された出征軍人遺家族の子どもについては「其ノ期間中保育料ノ全部又ハ一部ヲ免除スル」（同規定第9条）と

定めた。⁵⁾

- b 駿東郡原町保育園 「出征軍人子弟及貧困児ト認メル幼児ノ保育料ハ無料トナシ日用品ヲ給与ス」とした。⁶⁾

イ 変わる保育内容

1941年になると、保育所の「保育の方針」からは、子どものすがたは捨象され抽象的・観念的な徳目が連なり「国家的行事」が導入された。行政当局を意識した保育の実践が行なわれたようすが伝わる。

a 静岡市八幡保育園

「保育の方針」（八幡保育園案内）である。学齡前でも「国民的精神の鼓吹」をいう。

資料 保育の方針（1941.9現在）⁷⁾

(イ) 精神的保育方法 毎日伊勢神宮、宮城遥拝を致し国民的精神の鼓吹に努めて又訓話、紙芝居等によりまして之が観念の助長に務めて居ります。

(ロ) 智的保育方法 幼稚園の例に慣ひ遊戯、唱歌、手技等の指導により智的方面を授け尚思考力、注意力の養成に努めます。

b 浜松市立海老塚、下池川保育園、馬込保育園

〈1940年以前のようす〉

海老塚保育園では、1931年には託児所から保育園と改めた。児童は「学齡前ノモノ」とし、「当分ノ内乳幼児ハ受託セズ、保育時間ハ日出ヨリ日没迄」とした。

保育科目は「童謡、舞踊、手技、御話其ノ他幼稚園ニ準ズ」としており、ここでも1940年前からすでに「教育」を意識した取組みを行なっていた。

馬込保育園の「事業成績」に関する統計である。

表 事業成績統計（1938、1939年度）⁸⁾

	前年度越員	本年度入園	年度末現在	一日平均保育人員
1938年度	71	42	113	49.6
1939	66	63	129	55.0

〈1940年のようす〉

海老塚保育園の1940年9月末の態勢は、保姆は4名、保姆助手1名であった。⁹⁾

表 年中行事の概目（1940年度）¹⁰⁾

4月29日	天長節前日御話	5月5日	端午ノ節句
5月27日	海軍記念日ノ御話	6月10日	時ノ記念日御話
7月7日	七夕祭	9月中旬	月見会
12月23日	皇太子殿下御誕生奉祝	1月1日	新年拝賀式
2月4日	節分会	2月11日	紀元節前日御話
3月3日	桃ノ節句	3月6日	地久節前日御話
3月下旬	保育祭		

ウ 財政の依存

この時期、保育所の財政を支えたのは、県軍事援護事業助成金等であった。その実態を駿東郡原町の原町保育園についてみる。同保育園は、1932年11月、暴風災害を機に園長植松ちよによってつくられた。1940年の職員は、園長のほか保姆4名、使丁1名であった。経営は県軍事援護事業助成金などの補助助成金でまかなわれた。¹¹⁾

表 収支予算書・収入の部

科 目	1939年度	1940年度
事業収入（保育料）	1,434,00	1,980,00
補助助成金	1,650,00	1,830,00
内 厚生省補助金	320,00	—
県奨励金	150,00	—
県軍事援護事業助成金	1,910,00	—
町補助	50,00	—
恩賜財団慶福会	1,300,00	—
寄附金	20,00	75,00
前年度繰越金	5,00	5,00
雑収入	1,00	2,00
経営者負担	480,00	580,00
計	3,590,00	4,472,00

(4) 保育の日々（1940）

保姆たちが、子ども（乳幼児）らと向き合う姿勢は変わらなかった。「家庭ニ於テ十分ナル保育ヲナシ能ハザル」ようすを目の前にするとき、子どもたちのことで精一杯であった。

やがて戦争という時局が待っていた。

ア 財団法人静岡ホームの幼児保育（1940）¹²⁾

児童養護施設として、扶養者のいない「満二歳以上ノ孤貧児ノ収容、救護」の事業を継続し、児童養護に力を注いでいた。1929年1月15日に「保育学園部」を設け保育の事業にも取り組んできた。「両親共ニ労働ニ従事シ（家庭ニ於テ十分ナル保育ヲナシ能ハザル）三歳ヨリ五歳マデノ幼児」の保育を実践している。1939年度の状況は「入所59名、退所61名、年末現在17名」という状況であった。

資料 1940年度保育学園部（静岡市社会課「静岡ホーム調書」）¹³⁾

保育態勢 満二歳以上五歳マデノ児童ヲ受託シ、保姆、嘱託医及看護婦ノ各職員協力シ
昼間保育ヲナスモノニシテ、保育料金壹円五拾銭ヲ徴収

保育方法 午前、午後ノおやつ並ニ昼食ヲ給シ

保育料納入 困難ナルモノニハ保育料ヲ免除シ

イ 静岡市立新富町保育園 (1940年度)¹⁴⁾

資料 新富町保育園

職員 園長 1 名、保姆 3 名、小使 2 名、囑託園医 1 名

保育年齢 満二歳ヨリ学齡マデ。託児事業ノ発展ニ研究ト努力

保育方法 年齢ニヨリ四組ニ組別シ、唱歌、遊戯、談話、手技、観察等ノ保育項目ヲモツテ指導ス。特ニ健康ニ留意、(中略)午睡、散髪、衣類ノ清潔等、保健、衛生ニ付意ヲ用ヒテ生活指導ヲナス

家庭トノ連絡 保護者会ヲ組織シ、会費一ヶ月金参銭也トシ、懇談、講演、映画、遊戯、遠足等ノ会ヲ催シ・・保姆家庭訪問ヲ行ヒテ連絡ヲ計ル。

(5) 保姆の働くすがた

社団法人救護会清水保育園を挙げる。当時、公刊された貴重な資料である。同園は1931（昭和6）年7月に開設された。保姆たちは長くて4年半の短期間でやめているところである。雇う側（社団法人・園長）も保姆も「当面、手伝う」という程の認識であったのか。ほかに早期退職の理由があったのか。保姆の専門性の蓄積という面で考えさせられる。

表 創立以来ノ役職員表 (1931.7～1941.9、清水保育園)¹⁵⁾

最終職名	氏名	就職年月日	退職年月日	在職期間
保姆長	A	昭6.7	昭7.2	0年8カ月
同	S	7.1	7.12	1.0
同	M	7.3	8.7	1.5
保姆	S	7.5	9.9	2.5
同	I	7.9	9.11	2.3
雑役	E	8.5	9.10	1.6
保姆長	I	9.4	12.7	2.4
同	G	9.10	14.3	4.6
保姆	S	9.12	14.5	4.6
同	H	11.4	14.9	2.6
同	K	11.4	15.7	4.4
同	Y	11.6	13.3	1.10
同	I	13.5	14.6	1.2

附録 太平洋戦争下の常設保育所—鷹岡保育園 (1940、4開設)¹⁶⁾

園児は鷹岡町から出征する兵士を、日の丸の小旗をふって見送った。「仲良二等兵」「水兵さん」を盛んに歌った。出征軍人の子どもは保育料が免除された。

註

1) 静岡県社会事業協会『社会事業』第22巻第4号、1939年5月、9～15頁

2) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月

- 3)、4)、5)、6)、7) 2) に同じ。15～16頁、306～308頁、267頁、277頁、257頁
8)、9)、10) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月、266～268頁
11) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月
12) 『静岡県統計書』昭和15年版、1942年8月15日、97頁
13) 静岡市社会課「昭和十五年私設社会事業関係」『静岡県史資料編20 近現代5』、1993年3月、
344～346頁
14) 静岡県社会事業協会『静岡県社会事業概要』、1941年9月
15)、14) に同じ。289～290頁より作成
16) 富士市児童課『富士の保育史』、1986年3月、28～29頁

まとめと課題 戦後へのつながり

大正期から昭和初期の「子ども中心」をモットーとする保育事業から、10余年後の戦時厚生事業のもと戦争遂行の「人的資源の確保」の事業へと変わった。このおおきなうねりの中で、運営者も保母たちも「いっしょうけんめい努めた」ことが伝わる。

ところで、保母のしごとには、単なる子守の手伝いではなかった。実践には「しつけ」「唱歌」「遊戯」などの保育の領域や教育面も内包していた。子どもの成長発達に関わる専門性の萌芽をみる。

最後に、太平洋戦争のもとでは、保母たちの労苦は大変なものであった。でも、子どもたちに「国民的精神の鼓吹」を実践した事実（戦争協力）はまぬがれない。戦後の「児童は人として尊ばれる」（児童憲章）を各自がどのように受け止めたのだろうか。戦前と前後の保育実践のつながりとして検討したい。